

詩篇 第119編 54節

「あなたのおきては、私の旅の家では、私の歌となりました。」

この歌い手は、あなたと呼ぶ、主なる神のみことばを讃えます。みことばのちからを歌い、みことばの慰めを歌い、みことばが支えてくれることを歌い、みことばが導いてくれることを歌います。みことばの限りのない豊かさを体験しつつ唇だけでなく全身で歌います。

みことばを思い起こす度、みことばを語る主なる神をあなたと向き合う度、歌い手には喜びが湧き、感謝が溢れ、讃えの声が溢れ出ます。その歌を、あなたである、主なる神の御前で歌います。この歌声こそ比類無き最高の歌となります。捧げる相手で歌の質は決まります。

歌い手は旅の途上です。旅はレジャーというよりも、険しい道であったことは、あなたのおきてが必要であることから推測できます。険しいといえは人生は旅といわれます。歌い手は旅と人生を重ねていたでしょう。旅の家といっています。険しい道で一息つくオアシスが家であったのでしょうか。そこからさらに旅立つところです。

ほっとしたところで、主なる神を歌い、そのおきてであるみことばを思い起こし、おもわず歌となります。